

平成 25 年 2 月 5 日（火）臨床試験推進センター 3 階 The Abukuma にて、「第 3 回統合産婦人科学研究合同シンポジウム」（創生応用医学研究センター）が開催されました。

約 2 時間に及ぶシンポジウムの中で、3 名のシンポジスト、特別講演にお招きした林琢磨先生より研究発表して頂き、皆様のご協力もあって、無事盛会のうちに終えることが出来ました。ご参加頂きました皆様に、心より感謝申し上げます。

シンポジウムでは、千葉初音先生より「乏精子症精子とゲノムインプリンティング」、末永香緒里先生より「血管作動性因子 Vasohibin がマウスの胎盤構築および妊娠にあたる影響」、西本光男先生より「子宮内膜癌における Steroid sulfatase 阻害剤の有効性に関する検討」というテーマで研究発表をして頂きました。研究内容は多岐に渡り、活発な質疑応答があり、予定時間を超過してしまいました。

特別講演では、信州大学 医学部 医学科 免疫制御学 林琢磨先生より「老化監視：子宮間葉系腫瘍“平滑筋肉腫”に対する自己防衛機構」について御講演を頂きました。LMP2 KO マウスにみられる子宮平滑筋肉腫の発生メカニズムを「老化監視システムの破たん」に注目し、臨床サンプルを用いた解析を加え、非常にわかりやすく説明して頂きました。

今回のシンポジウムの開催が、統合産婦人科学研究コアセンターが目標とする、これまでの産婦人科領域を超えた、産婦人科学・助産学・女性医学・生殖基礎医学などの各研究チームの深い専門領域間の融合による新たな産婦人科学研究の推進に、大いに貢献することと思われます。また、共同研究が進む事を期待します。